

事務事業評価シート

事業番号 No. 60		事務事業名 小中学校作品展補助金		所管部課 教育指導課						
基礎情報	事業開始時期【1】	合併前		実施形態【2】 ☐ 直営 ☐ 委託 ☒ 補助 ☐ その他 ()						
	根拠法令等【3】	西東京市立小中学校児童・生徒作品展補助金交付要綱								
	総合計画【4】	基本目標 2 子どもが健やかに育つまち	基本施策 6 子どもの学びや生きる力を育むために	施策 6-1 学校教育の充実						
	個別計画【5】	計画	施策等①	施策等②						
事務事業の概要	事務事業の目的と目指す成果【6】	西東京市立小中学校の児童・生徒の各教科の作品等を一堂に会して展示することにより、児童・生徒の創作意欲の向上と鑑賞力等豊かな情操を育てることを目的とし、ひいては市民への学校教育に対する理解、関心を高めることで、特色ある学校づくりの推進に寄与するため。								
	事務事業の内容・実施方法等／補助の概要【7】	【補助の概要】 ■支払方法:概算払 ■補助額:小学校(児童作品展)455,000円、中学校(中学校作品展)340,000円、計795,000円 ■国・都補助の有無:なし ■上乗せ横出し補助の有無:なし ■補助対象経費: (1) 報償費(講師謝金) (2) 需用費(消耗品:文具費、参考図書の購入等、研究や事業実施に必要な消耗品) (印刷製本費:研究資料、ポスター等の印刷費) (3) 役務費(切手、はがきの購入、振込み手数料等) (4) 使用料及び賃借料(車の借上、会議室の使用料等) ■補助対象:小学校・中学校の校長会								
事業費データ	項目	令和5年度(決算額)		令和6年度(決算額)		令和7年度(決算見込額)		令和8年度(予算額)		単位
	事業費計【8】	725		651		730		795		千円
	財源内訳									
	国庫支出金・都支出金									
	その他()									
	一般財源	725		651		730		795		
	人件費計【9】	671		744		744		744		
内訳	正規職員	0.10 人	671 千円	0.10 人	744 千円	0.10 人	744 千円	0.10 人	744 千円	
内訳	会計年度任用職員	人	千円	人	千円	人	千円	人	千円	
総コスト		1,396		1,395		1,474		1,539		
活動実績【10】	項目	令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度		単位
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	見込値	
	① 交付件数	-	2	-	2	-	2	2	-	件
②										
成果指標【11】	項目	令和 5 年度		令和 6 年度		令和 7 年度		令和 8 年度		単位
		目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	見込値	
	市内小中学校作品展の来場者数	5,500	6,162	5,500	6,267	5,500	6,282	5,500	-	人
	① 【成果指標の説明】	作品展への来場者数としている。例年1月に実施。								
	② 【成果指標の説明】									
事業環境等	事業実施における課題点と改善に向けての取組【12】	例年「南町スポーツ・文化交流センター(きらっと)」を会場として使用している。教員及び職員の事務負担軽減の観点から、過去に開催日数の見直しも行っているところである。								
	他団体の実施状況【13】	近隣4市調査のうち、1市のみ実施。								
	代替・類似サービスの有無【14】	☐ 有 ☒ 無								

【検証項目】

検証項目 【15】			一次評価	二次評価	本部評価	
	必要性	事業の実施が国・都の法令等で定められている	非該当	非該当		
		市が主体となって実施しない場合、市内における当該サービスの提供が不十分になる恐れがある	該当	該当		
		現下の社会経済情勢に見合った事業である	該当	該当		
	有効性	成果指標の達成状況はどうか	3	3	0	/9
		上位施策等の目的の達成に向けて事業の対象は適切か	3	3		
		上位施策等の目的の達成に向けて事業の内容・実施方法は適切か	3	3		
	効率性・経済性	業務プロセスに改善の余地はないか	3	2	0	/9
		投入したコストが活動実績に見合っているか	3	3		
		国・都の補助金や受益者負担など、一般財源以外の財源確保がされているか	-	-		

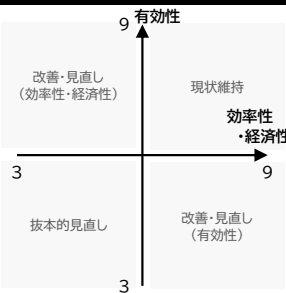
【一次評価・二次評価】

一次評価 【16】	必要性	西東京市立小中学校の児童・生徒の創作的意欲の向上と鑑賞力等豊かな情操を育て、市民への学校教育に対する理解、関心を高めることで、特色ある学校づくりの推進に寄与することから、今後も継続する必要がある。	二次評価 【17】	必要性	児童生徒の作品を、学校外で発表・紹介することは、児童生徒の達成感や自己肯定感を高めることにもつながる。情操教育ともなり、児童生徒の、観察眼や創作的意欲向上に資することになるため、必要性が高いと考えられる。
	有効性	成果指標において、令和5年度から7年度にかけて、実績値が微増している。わずかではあるが、本事業によって学校教育に対する理解、関心が高まっていることが推察される。		有効性	展示数を増やす場合には会場使用料などの増額が考えられる。また、近年は実績がないという講師謝金についても、例えば作品の説明員等の方向性も検討できるのではないかと考えられ、本事業の目的の達成をさらに高めるため、経費の額、内容、用途について検討の余地があると考ええる。
	効率性・経済性	交付金は講師謝金、文具・参考図書・消耗品の購入、研究資料の印刷製本費、ポスター等の印刷費、切手・はがきの購入、振込み手数料、車の借上料等に使用され、作品を成り立たせるうえで、重要な用途に充てられている。交付金の使用用途のいずれを見ても、本事業の効率性・経済性がうかがえる。		効率性・経済性	目的の達成のためには、展示する児童生徒の選考方法について、決まった代表だけではなく、在学中に1回でも展示されることが適切ではないかと考える。それにより、保護者や大人の理解や関心の向上も期待できる。

【外部評価】

評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等【18】	

【行革本部評価】

	コストの方向性	評価の判断理由及び事業実施上の課題や今後改善すべき点等
	総合評価	
	必要性	

改善の方向性と今後のスケジュール【19】	
----------------------	--